

課題名	敗血症患者における抜管後嚥下障害と ICU 入院時筋肉量の関連
承認番号	2024-10 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 栄養課 氏名 大川 李絵
研究期間	(西暦) 2024 年 11 月 ～ (西暦) 2025 年 12 月
研究の意義・目的	近年、敗血症患者さんにおいて人工呼吸管理後に発生する抜管*¹後の嚥下障害が問題になっています。抜管後の嚥下障害を発症するリスクとして、年齢、人工呼吸期間、病前からのフレイル*²などが挙げられますが、入院時の筋肉量低値が抜管後の嚥下障害のリスクとなるかは不明です。本研究は、人工呼吸管理を施行した敗血症患者さんにおいて抜管後の嚥下障害と ICU 入院時の筋肉量の関連を明らかにすることを目的としています。 また、入院時の筋肉量評価の重要性と抜管後の嚥下障害リスク患者さんに対し、早期から多職種で継続的に介入し、転帰時の嚥下機能、生活の質に与える影響について考えます。 *1 抜管：人工呼吸器の離脱 *2 フレイル：年齢に伴って筋力や心身の活力が低下した状態
研究の方法 (対象期間含む)	2021 年 1 月から 2023 年 12 月の期間で、当院 ICU に入院し敗血症と診断された成人患者さんのうち、48 時間以上人工呼吸管理を要し、入院時に第 3 腰椎レベルの CT を撮影した患者さんを対象とします。 入院時の CT で第 3 腰椎中間レベルの両側の腸腰筋面積を、低筋肉量群と正常群の 2 群に分け、患者さんの背景（年齢、性別、BMI、人工呼吸期間、栄養摂取量など）、抜管後 3、7、14 日目と転帰時の嚥下障害とに関連がある統計解析を行います。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	研究にあたっては、研究用の ID と病院の患者さんの ID を専用の対応表で結び付け、匿名化します。データベースと対応表は、外部から切り離された電子カルテ内のファイルサーバー内に保存し、外部に持ち出すことのないよう取り扱います。 匿名化した情報はファイルサーバーにパスワードを設定し、パスワード設定したパソコン内にて厳重に管理します。
利用又は提供する 試料・情報の項目	年齢、性別、BMI、APACHE II スコア*¹、SOFA スコア*²、NUTRIC スコア*³、人工呼吸期間、抜管後 3、7、14 日目、退院時の食事形態、栄養摂取量、栄養経路、入院時に第 3 腰椎レベルの CT、入院時、転帰時の日常生活動作 いずれも既存のカルテ情報から抽出することとし、新たに提供をいただく試料・情報はありません。 *1 APACHE II スコア：重症度を客観的に評価した点数 *2 SOFA スコア：臓器障害を簡便に評価した点数 *3 NUTRIC スコア：重症患者さんの栄養評価した点数
試料・情報を 利用する者の範囲	横浜市立みなと赤十字病院 栄養課 大川 李絵 横浜市立みなと赤十字病院 集中治療部 永田 功 横浜市立みなと赤十字病院 集中治療部 熊城 伶己 横浜市立みなと赤十字病院 救急科 市川 遊理 横浜市立みなと赤十字病院 リハビリテーション部 加納 可奈子

試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	横浜市立みなと赤十字病院 栄養課 大川 李絵
問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 栄養課 氏名 大川 李絵 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101